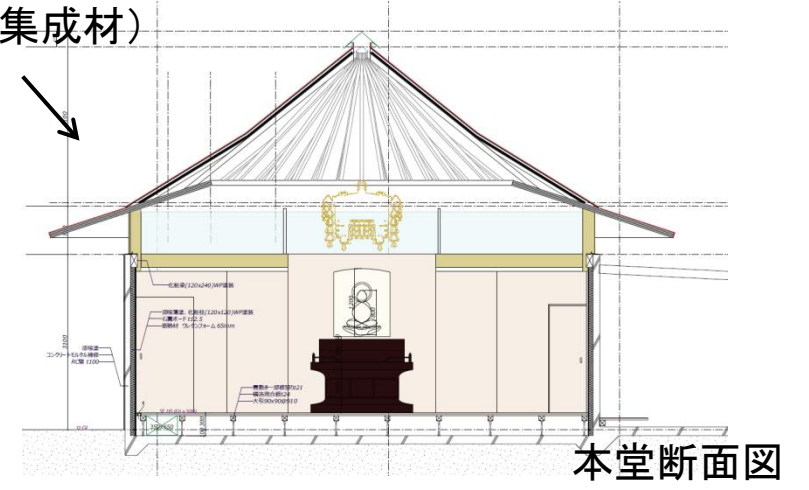
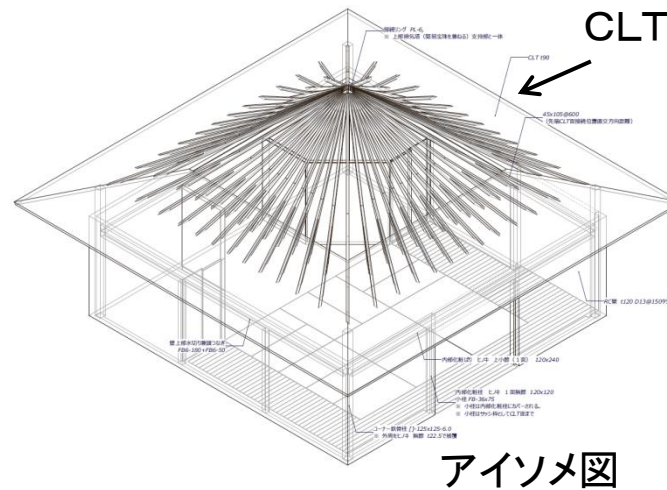
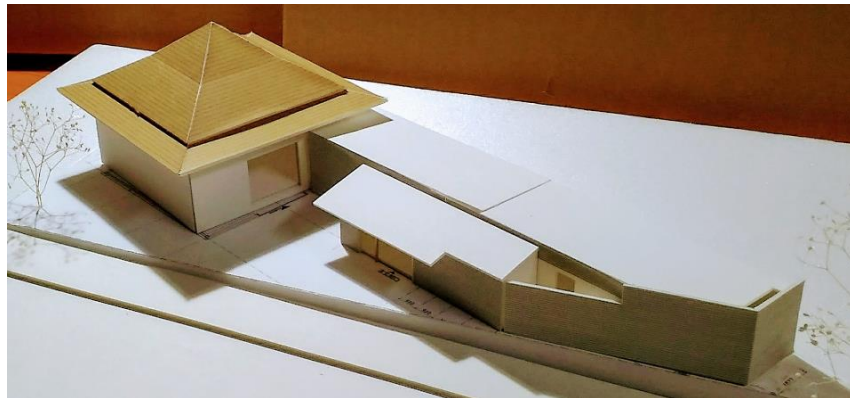
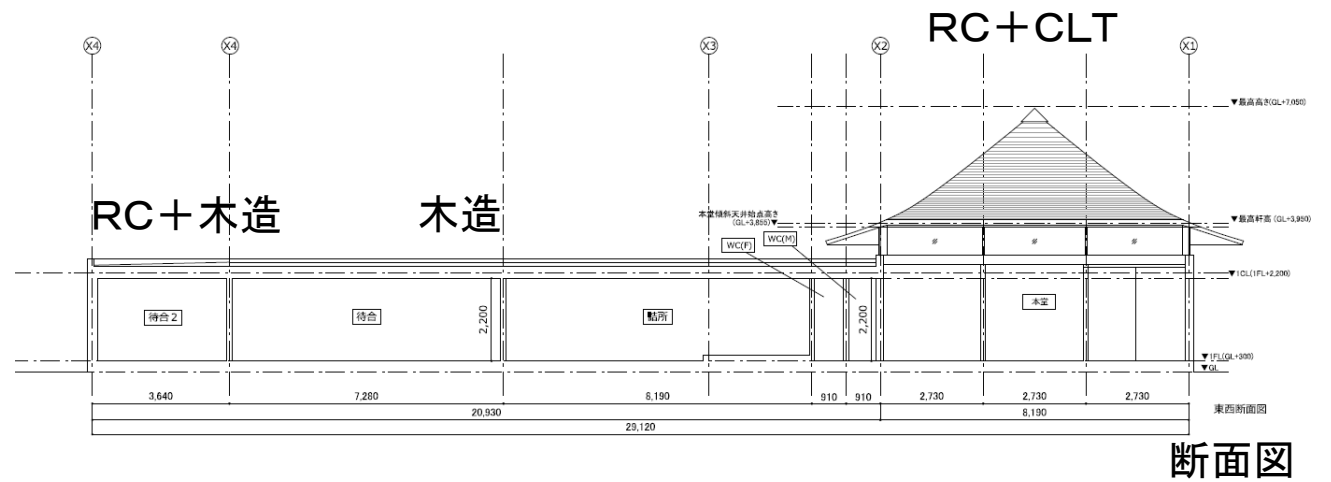
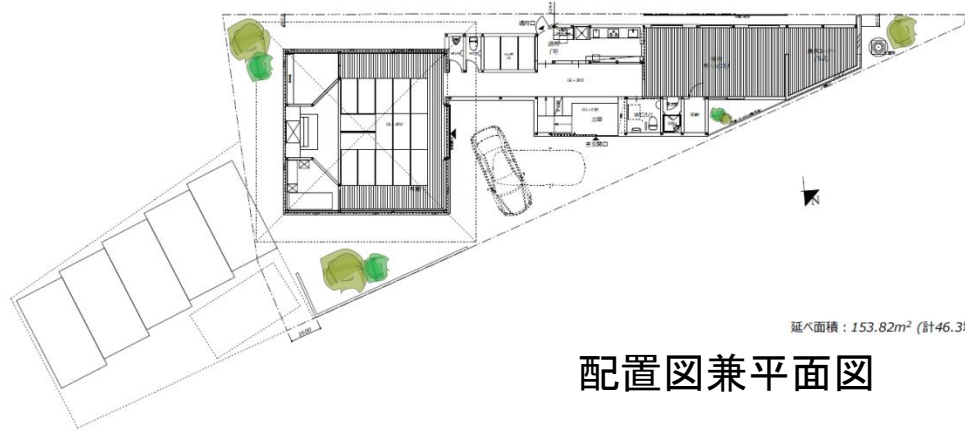


# 『 安永寺本堂新築工事 計画概要 』



## 計画概要

計画地	埼玉県狭山市大字上奥富字戸張213-1外	
敷地面積	318.85㎡	約96.45坪
構造・規模	RC造一部木造	平屋建て
建築面積	169.76㎡	約51.35坪
延べ面積	153.82㎡	約46.53坪
CLT	杉(構造)・桧(非構造)	産地:熊本県(製材所)
その他	桧(土台・柱)・杉(梁・垂木・野物材・造作材)・一部:集成材・米松・赤松 材積:約23㎡	産地:埼玉県(杉・桧)
設計者コメント 福山弘構造デザイン 代表 福山 弘	<p>計画コンセプト</p> <p>安永寺は葬儀のための仏教に向けられたものではなく、「様々な人のよりどころとなる場としての寺院を今一度提供したい」という若い住職の意識に鑑みて、設計としてこれまでの形骸した寺院の様式性を見直し、本質的な要素を最小限で取り出そうとすることで形作られたものである。</p> <p>大きな屋根が空に浮いているかのような構造の威容こそが日本における初期の社寺—例えば法隆寺といったもの—の特徴であり、今も多くの人にとっての原風景的な建築の一つのひな形になっていると考えた。このような形態的なコンセプトを装飾性を極力落とした形で実現するということを考えるにあたり、CLTの大版による3次元面トラス架構を用いて下部の柱に依存しない閉じた系としての天井屋根面を最小限の厚さで展開し、CLTが不要な部分には軸組材による軽やかな天井屋根面を加えることで、その架構の特長を最大限に表現として生かすことを試みている。</p> <p>計画のポイント(構造まで)</p> <p>CLT、在来軸組、遮音性や耐力に優れるRC壁、軸力受けと屋根へのつなぎを兼ねたS柱といった材料をそれぞれの特長が生かされるように利用して計画している。最終的には木造的に見えるように納めるが構造分類上はRC造の2コア構造で木造軸組部分が水平力を負担しなかったとしても耐力が足りるよう両端のRC壁のコアを設計した。実際には木軸部分も負担幅領域ごとに耐力壁を配置し過大な変形を防いでいる。RCの壁は水切りを兼ねた鉄骨の臥梁とCLTの屋根面に拠って面外変形を支えられながら面内力に対してはほぼ開口のない高い剛性で上部の屋根構造全体を支えている。CLTで作られる四角錐体の頂部を切った3次元トラス面は互いに持ちあうことで上部からの荷重を支えるリングとしての機能を果たしながら閉じた系として成立している—つまり下部の構造に載っているだけになっている。</p>	